風土記の丘の花だより198

今、そしてこれから見られる植物（2023年8月12日）

この猛暑、いつまで続くのでしょうか。勝手なことを言いますが、台風は欲しくないですが、雨は欲しいですね。先週あたりからツクツクボウシやミンミンゼミが鳴き始め、夏も折り返し地点に来たと思いたいものです。さて、今回も４種類の花を紹介しましょう。

まずは名前に夏が付く植物ナツフジです。名前の通り夏に咲くフジです。でも藤棚のフジに比べると花も房も比べものにならないほど小さいですね。他のつる草に混じってお互いに絡み合いながら生えているので、植木の手入れや草抜きの時に必ず除去される植物です。この写真は万葉植物園で撮りましたが、探せばあちこちで見つかるはずです。万葉の時代には、季節外れに咲く藤という意味の「ときぢきふぢ」という名前で呼ばれていました。ごくごく薄い黄色がなんとなく涼しげに思えますね。

このウリクサは、ちょっと前に紹介したばかりですが、今あまりにも美しく咲いているので紹介します。万葉植物園のアジサイの段の地面にいっぱい咲いています。今ちょっとブームの牧野植物圖鑑では、「園地並ニ田野ニ生ズル一年生ノ小草本。（中略）和名ハ果實ノ状ニ基ク。」とあります。実がウリの形に似ているのでウリクサと名付けられたと書かれています。分類体系も違うし、文語体だし、今となっては確かに使いづらい図鑑ですが、見ているとおもしろいですね。

この草はトキンソウ、漢字で書くと「吐金草」です。なんと金を吐き出してくれるそうですよ。本当にそうなら嬉しいのですが、花の後にできる膨らみを押しつぶすと、中から黄色い種子が出てきて、それを金に見立てたと言われています。さて、何科の植物でしょう、想像つきますか？なんとキク科なんですよ。写真の中に丸いものがいくつか写っていますね、それが花です。花びらはありません。上のウリクサが生えるようなところに同じように地面に張り付いて生えています。

トゲトゲの木、タラノキに花が咲いています。花といっても華やかさはありません。でも大きくて全体に薄黄色っぽく見えるので、目立つ花ではあります。一つひとつの花は３ミリあるかなしか程度ですが、それがたくさん集まって「花序・かじょ」という花のかたまりになって咲いています。この木は万葉植物ではありませんが、万葉植物園には多く生えています。多くの大きなシラカシやクヌギ、コナラなどが枯れて日光が下まで届くようになったので、一気に成長しました。自然の仕組みって、おもしろいですね。

松下